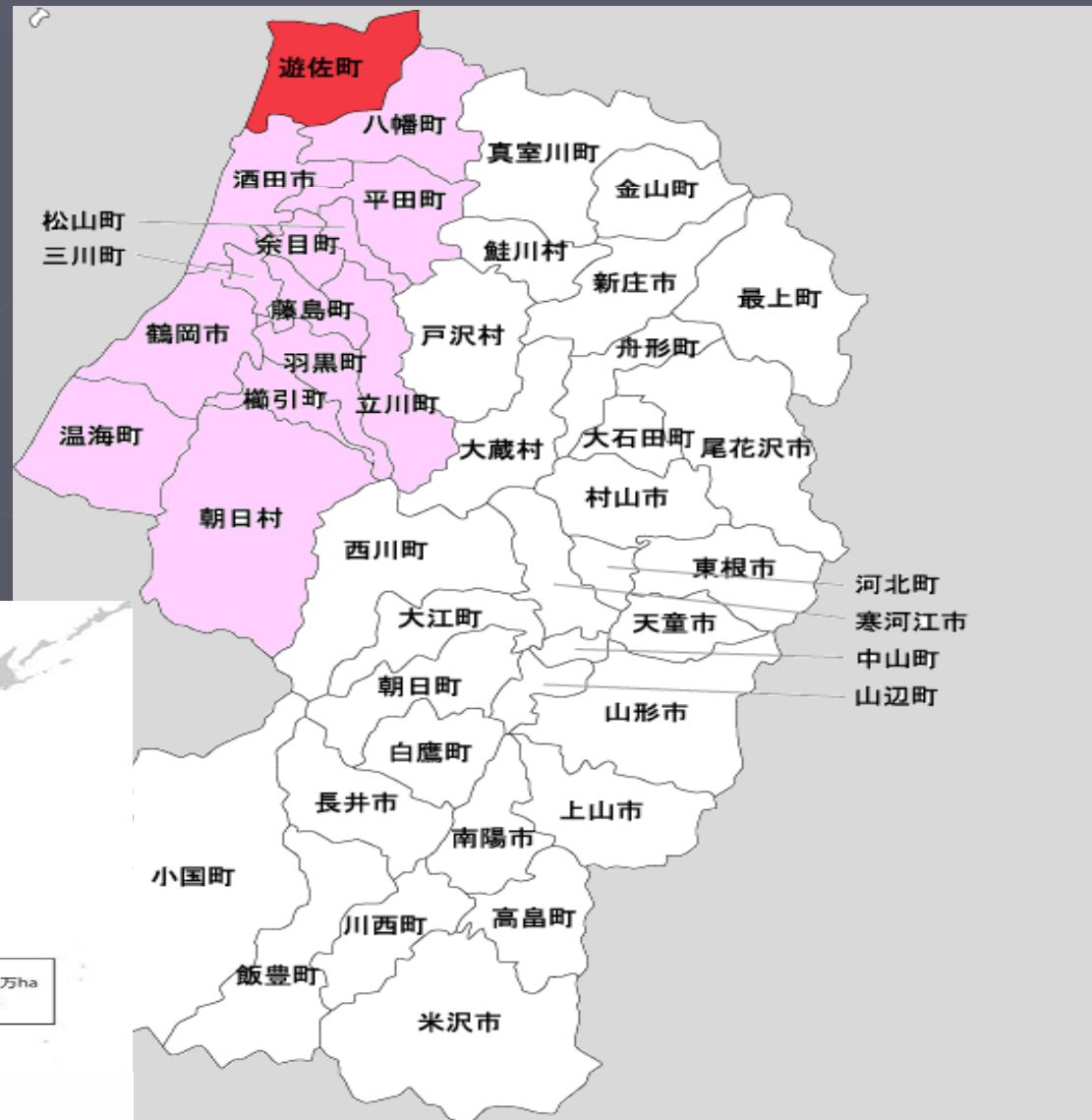




飼料用米と遊佐町の環境の取り組み

山形県遊佐町の所在

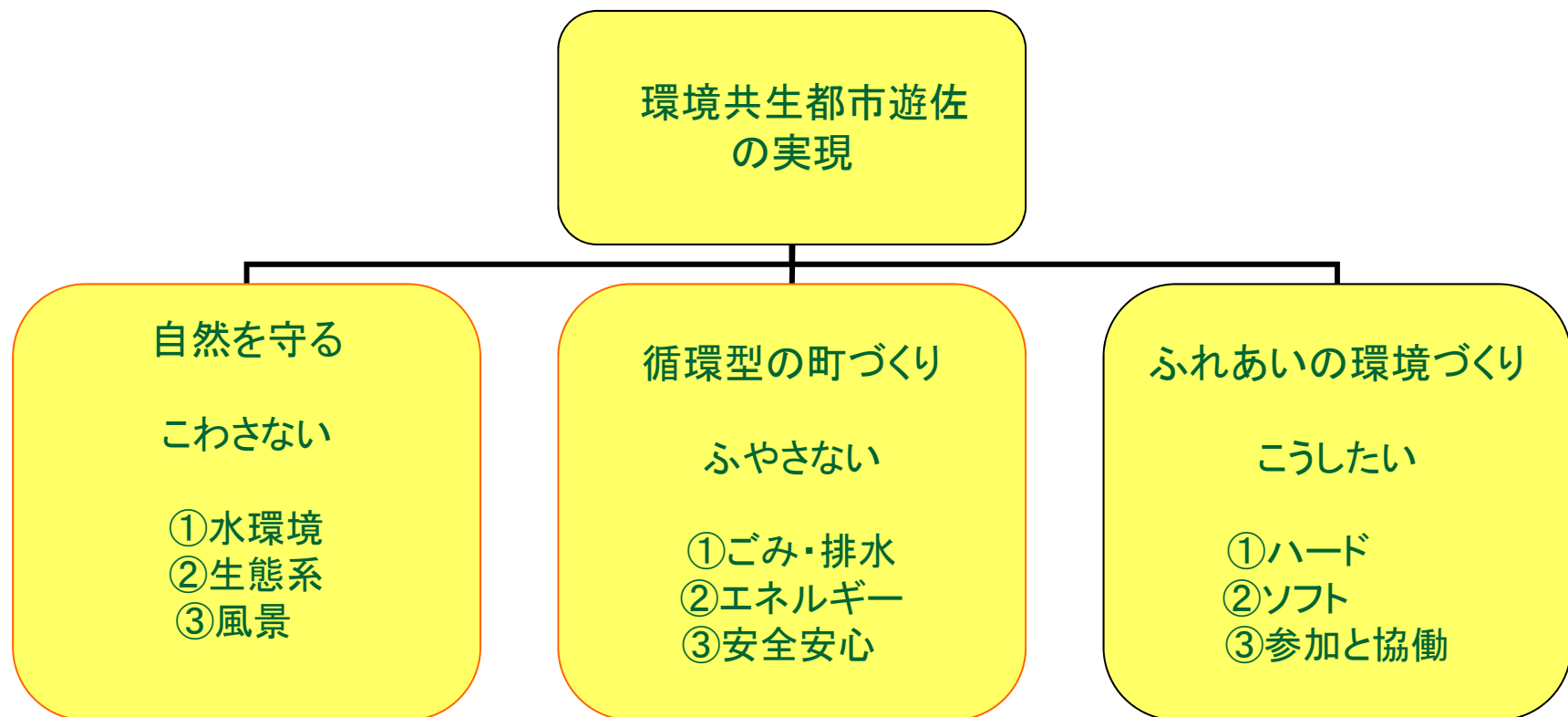




これまでの経緯

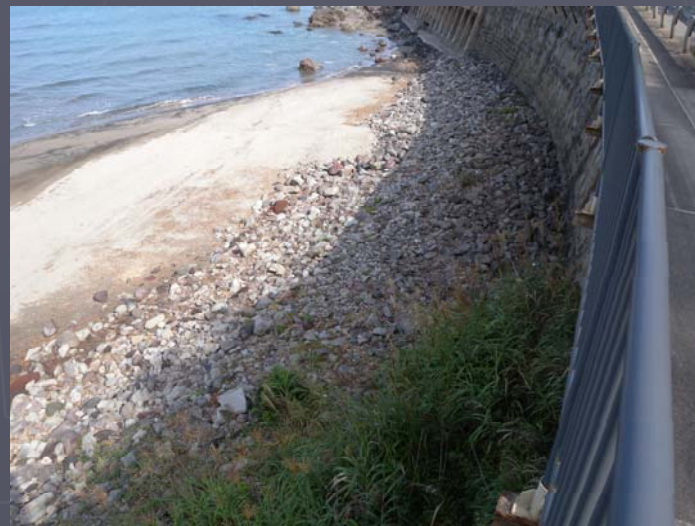
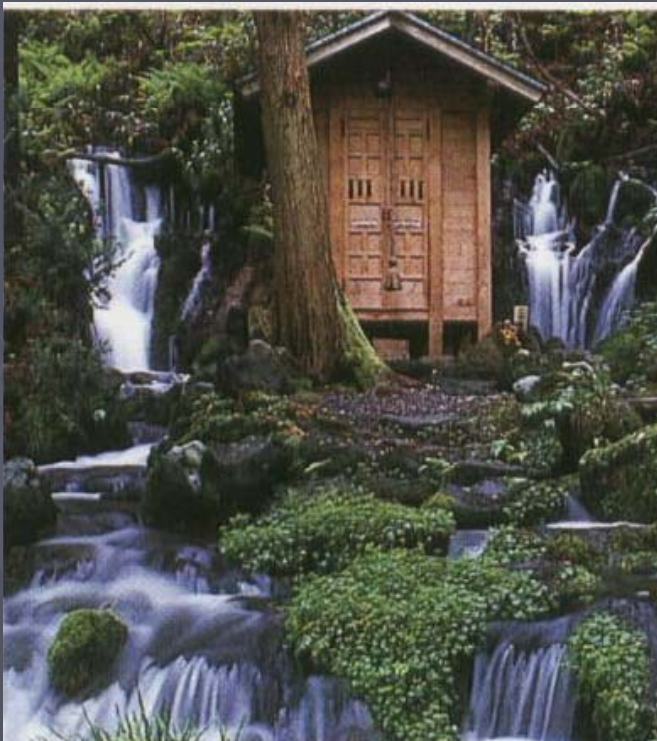
- ▶ 平成 2年 月光川の清流を守る基本条例
- ▶ 平成 9年 遊水の郷づくり基本構想
- ▶ 平成11年 環境基本計画
- ▶ 平成12年 新エネルギービジョン
- ▶ 平成13年 ゆざまち環境行動指針
- ▶ 平成15年 遊佐町環境基本条例
- ▶ 平成19年 遊佐町まちづくり基本条例

環境基本計画の骨格



こわさない

- ▶ 胴腹滝 山形県里山環境保全地域指定 第1号)
平成14年3月指定
- ▶ 山砂採取の基準策定
- ▶ 海岸清掃重点クリーンアップ(環境省)



岩石採取の問題 約8ha



遊佐町農業の特徴

1、環境保全型農業の推進

特別栽培米等作付拡大1,300ha(62%)

2、消費者と一体なった農業の推進

3、飼料用米生産を軸に耕畜連携の推進

4、施設園芸の導入による経営の複合化



協同組合間提携が育んだ
食糧自給率アップの具体的方策

飼料用米生産の取組

- 1、生産者と消費者との長年にわたる提携関係
- 2、現在ある全てのものが見える。
（施設・機械・技術他）
- 3、水田を水田として活用できる。
- 4、大豆等の連作障害解消
- 5、生産量拡大の可能性

庄内みどり農協と生活クラブの提携関係

- ▶ 1972年米の販売からの出会い
- ▶ 米から野菜へ
- ▶ 環境を守る運動へ
- ▶ 情報の公開
- ▶ 生産者と消費者が一緒になって行う
米作り・野菜づくり・環境づくり
- ▶ 農政への提言

遊佐町の販売農家数(1247戸)

(単位:万円)

作物名	産出額	割合
米	326,000	53.30%
豚	108,000	17.60%
メロン	34,000	5.60%
肉牛	24,000	3.90%
ゆり	16,000	2.70%
総合計	612,000	

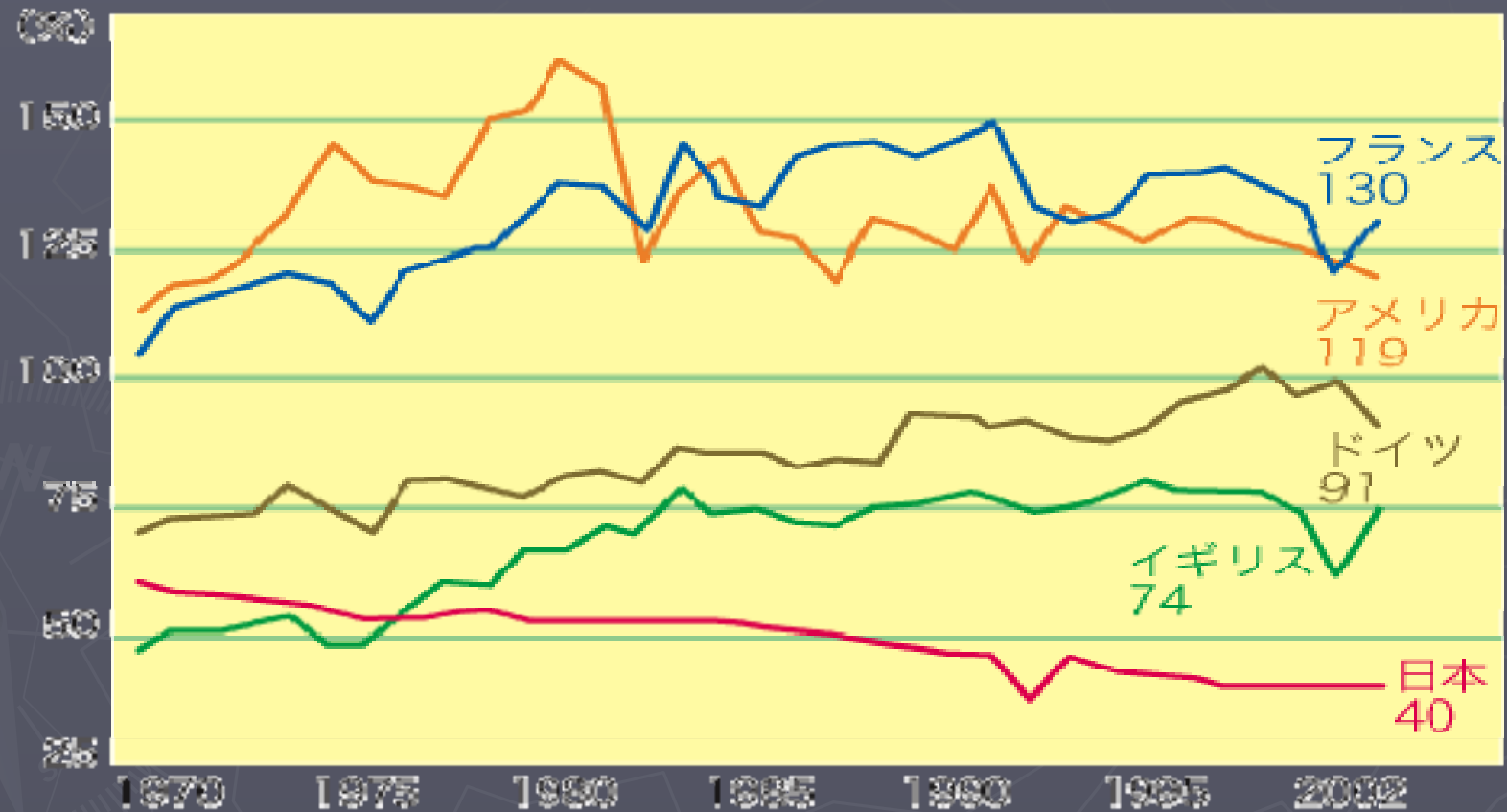
2005年農業センサス

協同組合間提携の具体的行動

- ◆日本の食糧自給率(穀物)の向上
- ◆安全・安心な国産での餌づくり
- ◆農地(水田)の保全
- ◆循環型農業の形成
- ◆連作障害の回避
- ◆食糧の安全保障確立
- ◆他の国から食料を奪わない国に

取組の背景

日本の食料自給率はどうなっているか



農水省資料より抜粋

飼料用米プロジェクト体制

飼料米生産による自給率向上
に関する調査検討プロジェクト

ワーキンググループ

遊佐町
遊佐町共同開発米部会
生活クラブ生協
(株)平田牧場
全農山形県本部
JA庄内みどり
北日本くみあい飼料(株)

飼料米栽培に関する調査検討

消費影響に関する調査影響

持続的生産体制整備に関する調査検討

助言・指導

(独)東北農業研究センター水田利用部

(独)山形大学農学部

山形県庄内総合支庁酒田農業技術普及課

具体的な取組 内容



- 1) 産地に適した品種の確立
- 2) 生産コストの低減技術の確立
 - ① 直播
 - ② 豚尿利用
- 3) 作付生産者の拡大と栽培体系の確立
- 4) 飼料米の配合飼料添加における家畜の育成

生産コスト低減技術の確立



動力散布機の利用



鉄コーティング種子



打ち込み式点播は種機



直播きほ場

理化学分析値

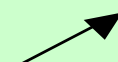
飼料用米の配合割合

0%の豚

10%の豚

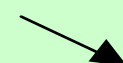
粗脂肪含有量 (%)

3.1%



4.7%

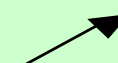
脂肪が溶け始める温度 (°C) 38.4°C



34.3°C

肉の色 (明るさ)

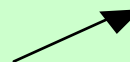
51.3



51.4

脂肪の色 (白さ)

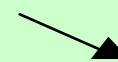
76.7



81.1

ステアリン酸 (%)

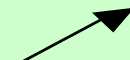
16.6%



14.9%

オレイン酸 (%)

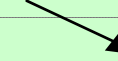
40.7%



43.1%

リノール酸 (%)

12.6%



8.9%

飼料用米助成金の推移

H21.5.29

	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	
基本助成	10,000	10,000	20,000	45,000	32,000	45,000	
担い手加算		20,000	35,000				
定着加算				5,500	5,500	6,500	
町単体加算	6,000	5,000					
県単体加算					4,000	4,000	
水田有効活用							55,000
需要即応型						25,000	25,000
						5,000	5,000
販売収入	11,730	16,740	22,960	24,380	27,600	27,600	27,600
合 計	27,730	51,740	77,960	74,880	69,100	113,100	112,600

(最高額)

拡大・定着に向けた課題

1、コスト低減による収益アップへ

収量アップによる収入アップ効果が薄い

- ・直播栽培による安定した収量の確保
- ・豚尿の活用(短時間による散布方法の確立)
- ・輪作体系の確立
(飼料用米+ナタネ+大豆、麦+大豆等)
- ・堆肥の活用

2、飼料用米利用量の拡大

- ・飼料用米利用促進の政策化
(飼料への混入利用の義務化・確かな需要の確保)
- ・全畜種の拡大
(豚、鶏、牛への利用)
- ・利用期間の拡大

拡大・定着に向けた課題

3、生産意欲の湧く制度の確立

- ・面積支払から収量支払へ
(10a当り 80000円を 80円/kgへ)
- ・栽培方法への支払
(輪作栽培、環境保全型、環境対策費)
- ・WTOに負けない理論構築

100g1円の負担アップは高いか？

- ・消費者がどこまでコスト負担が可能か？
(飼料用米とトウモロコシ格差分等)
- ・保管、管理は誰が負担するのか？
(保管する倉庫がない、新たな経費負担増)
- ・広範囲での生産
(飼料工場の集約化、運搬費の拡大)

拡大・定着に向けた課題

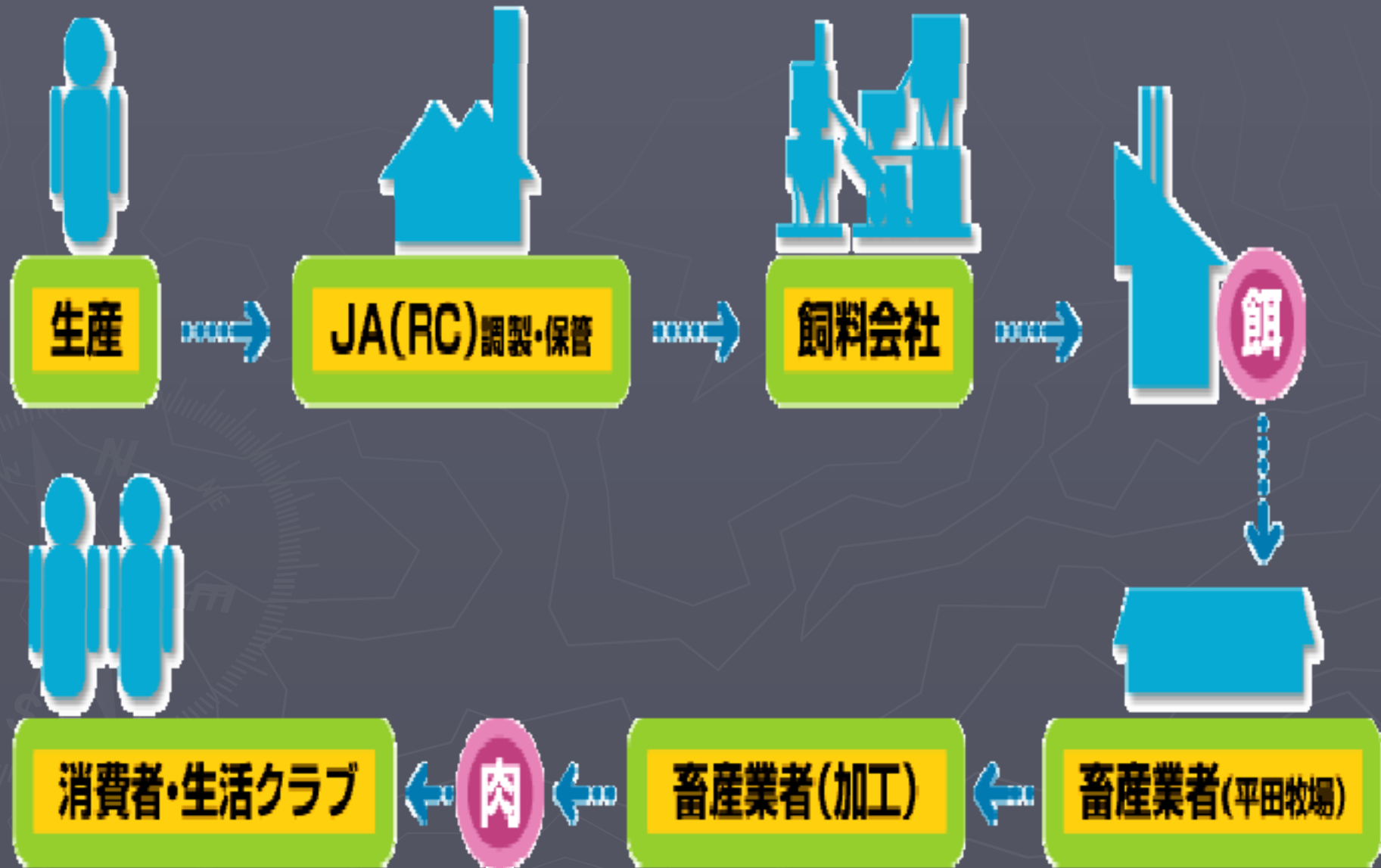
4、生産者、流通ルートの段階での一般米との明確な区分管理の確立

- ・不正規流通の根絶
（飼料用米自体が崩壊）
- ・全ての段階のチェック
- ・粉碎しての出荷
（転用の防止）

5. 長期的な目標の設定

- ・3年では種子、施設の償却が出来ない
（開発にかかる時間は）
- ・環境対策の手段として
（CO2・温暖化対策、治水、フードマイレージ等）
- ・世界は食糧不足（増え続ける飢餓人口）
（世界に誇れる国になる）

飼料用米の流れ



こうしたい 住民や学校の活動

- ▶ 少年議会
- ▶ 八面川の保全活動
- ▶ インターンシップ(海浜清掃)
- ▶ 西通川の観察活動(西遊佐小学校)
- ▶ 山林の整備活動(西遊佐小学校、稲川小学校、吹浦小学校)



食＋農＝環境

- ▶ 水食料輸入は水の輸入
飼料のトウモロコシ 1650万トン
95%アメリカから
フードマイレージ
輸入量×輸送距離
二酸化炭素の排出
地球温暖化

地産地消の推進



ご静聴ありがとうございました。